

# 平成23年度福井県地産地消率状況調査の結果について（要約版）

第1回（平成21年度）と同じ地区の一般世帯および各流通・加工事業者、飲食店事業者を対象に行った地産地消に関する調査の結果は次のとおり。

## 1 調査結果（全て重量ベース）

**（1）消費・地産地消率 60.4%** （参考：第1回同時期58.3%）

約1,400の調査世帯で、平日と休日の計2日間に消費している食材（重量）のうち、どれくらい県内産が含まれているか

**（2）生産・地産地消率 71.3%** （参考：第1回67.4%）

統計資料および市場やJAへの県外出荷の聞き取り調査から、県内の総生産量のうち、どれくらい県内向けに出荷されているか

**（3）流通・地産地消率 52.4%** （参考：第1回同時期52.9%）

約1,400の調査世帯で、県産農林水産物の入手先のうち、どれくらい市場流通等（購入）を経由して得ているか

## 2 主な特徴

調査世帯における地産地消への関心や県産農林水産物を選択する行動は、着実に広まっている。また、県産農林水産物の供給源として、「盛んな家庭菜園等からの農産物を自家消費やおすそ分けで入手」といった形態が大きな割合を占めていることが伺える。

一方で、県産農林水産物を主な購入先である量販店や流通市場では、比較的県産品を取り扱う割合が少ないことから、今後もより一層の取扱いを促していく必要がある。

### （1）消費面

①第1回調査時（2年前）に比べ、地産地消を進める世帯が増加

27.7%の世帯で「2年前に比べ県産農林水産物を食べる量が増えた」と回答

②食事は、食材を購入（入手）し、家庭で調理することが多い

調査世帯の食材消費重量を食事形態別で比較すると、「家庭食」が全体の91%となり、外食や総菜は9%となっている。

### （2）生産面

①家庭菜園が盛んに行われている

家庭菜園（農業）を実施している世帯が全体の4割以上となっているほか、家庭菜園に興味のある世帯を含めると全体の6割となる（第1回調査と同じ傾向）。

## ②家庭菜園では、耕作面積は所有面積のおよそ2倍

家庭菜園の作付け回数と面積を尋ねた結果、所有面積の2倍の面積を耕作

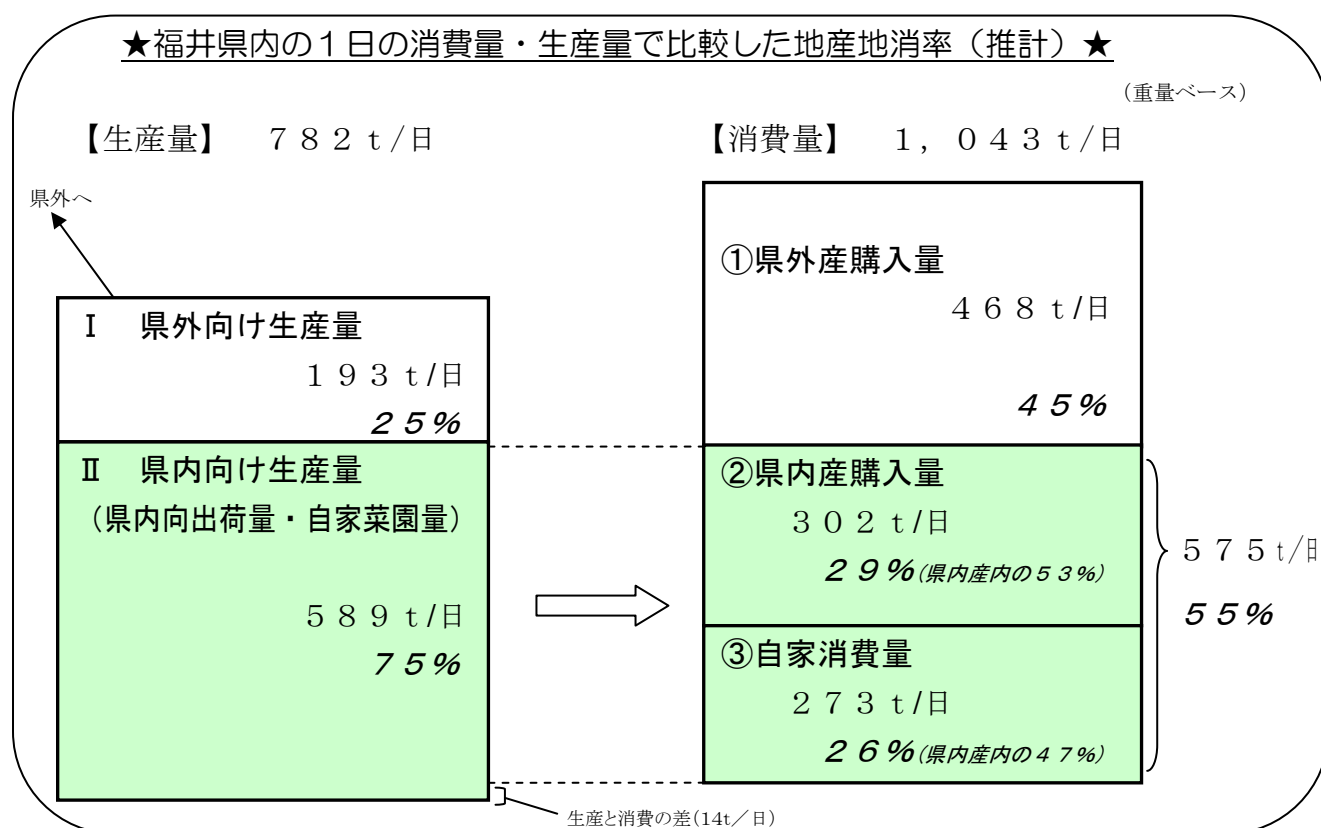
### (3) 流通面

- 各流通業態別では、市場や量販店の県産農林水産物の取扱割合が低い

業態	県内産の取扱割合(重量)	(参考:第1回)
青果市場	14.1%	(15.8%)
水産市場(消費)	28.5%	(30.8%)
量販店	19.3%	(24.0%)
商店・専門店	52.1%	(33.5%)
飲食店	44.0%	(44.8%)
病院・福祉施設	39.1%	(31.0%)

### (参考) 県全体の年間・地産地消率(推計)

調査をもとに県全体の地産地消率を推計した。推計方法は、第1回同様、曜日バランスや野菜の季節変動、家庭における消費量の季節変動等を加味した。ただし1400世帯の調査結果を県内世帯数や年ベースに換算しているため、数値はあくまで大まかな目安ということに注意を要する。



- 消費・地産地消率(どれくらい県産品を食べているか) **55%** (第1回54%)
- 生産・地産地消率(どれくらい県内向けに生産しているか) **75%** (第1回71%)
- 流通・地産地消率(県産品入手に占める購入(市場)割合) **53%** (第1回53%)
- ★購入に占める県産品の割合(目標:H25までに39.3%) **39.2%** (第1回38.4%)

※日別県産農林水産物の消費量 575 t/日(前回566 t/日) +9 t/日